

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
いただき	約4.5ha	678kg/10a	141kg/10a(537kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族経営(本人、妻、母)
- れんこんを中心とした複合経営

【作付品目】

- 主食用米 コシヒカリ 2.9ha
- 飼料用米 いただき 4.5ha
- れんこん 1.4ha

【取組のきっかけ】

- 主にれんこんと主食用米の栽培を行っていたが、労働力の不足もあり、品目間での作業時間の分散を行う事が出来なかつたかと思ひ、JAに相談したところ、飼料用米生産を提案され取組を開始した。

【多収のポイント】

- れんこんと飼料用米のブロックローテーションを行うことにより、れんこんの連作障害(地力低下)を防ぐとともに、飼料用米の単収増加を図っている。
- 地域の慣行(60株/坪)から、50株/坪に減らす疎植栽培を行うことで、分けつ数を増加させるとともに、通気をよくし病害虫の発生を抑制することにより、単収の増加を図っている。

【コスト削減等のポイント】

- 除草についても、初期剤と一発剤を使用することにより、2回の散布で雑草防除を行い省力化を行っている。
- れんこんと飼料用米の「いただき」、「コシヒカリ」の栽培を行っており、れんこん、主食用米、飼料用米の作期分散が図られている。コシヒカリの収穫後に「いただき」を収穫することで、主食用米へのコンタミを防げるとともに、コンバインや乾燥機の清掃の時間も削減。収穫はなるべく遅くし、ほ場で乾燥させることにより、収穫後、乾燥機での乾燥時間を短縮することで燃料費を抑制。
- 飼料用米の作付増加などにより、コスト低減とほ場の保全につながっている。